

短期招聘派遣プログラム報告書

1. 招へい者（派遣者）の氏名と滞在期間、滞在先を全員分書いてください

寺居 剛、8/11-8/15、シンガポール

2. 受け入れ担当者の氏名と所属

3. 招へい（派遣）の目的を2-3行で

Asia Oceania Geosciences Society (AOGS) 2009に参加し、研究成果を発表するとともに、惑星科学分野における最新の研究成果について情報収集を行なう。

4. 成果報告（用紙が不足の場合は足してください）

大変参考となる研究報告を多数聴くことができた。特に「Comprehensive Understanding of Small Solar System Bodies」セッションでのNader Haghighipour 氏 (Hawaii 大学) によるメインベルト・コメットについての講演や、Noeki Pinilla-Alonso 氏 (NASA) による氷準惑星についての講演などは、近年研究が行われ始めたばかりのテーマであり、興味深い内容だった。

また、Dennis L. Matson 氏 (カルフォルニア工科大学) による Lecture 講演「Cassini-Huygens at Saturn!」では、土星探査機Cassiniと衛星タイタンに投入された小型探査機Huygensによる観測成果が紹介され、会場は鮮明な画像の数々に感嘆する聴衆たちの熱気に包まれた。特にHuygensが観測した、タイタン地表に見られる河川や三角州、湖と思われる地形には大いに好奇心を駆り立たせるものがあり、氷天体領域における天体の形成・進化過程をひも解く貴重な情報であると強く感じた。

自身の発表は、「A Wide-field Survey for Small Main-belt Asteroids in High Inclination」という題目で行った。火星-木星間に存在するメインベルト小惑星を対象に、大きな軌道傾斜角を持つ小惑星のサイズ頻度分布を調べたところ、傾斜角の小さな天体のそれとは明らかに異なることが示されたという内容で、天体直径に対する衝突破壊強度のスケーリング則が衝突速度に依存すること反映したものではないかと考えている。今回は招待講演だったため発表時間を25分間もいただいたが、英語発表の準備が不十分で納得のいくプレゼンテーションができなかった。今回の経験を生かし、研究をより進展させていくとともに、成果をうまく伝えられるように発表の訓練していきたい。